

(支部大会特集号)

5月20日(土)支部大会が開催されました。この大会は会社でいえば株主総会のようなもので重要な機関です。その大会で次の二つの表彰式が行われました。今号はその表彰式の紹介です。

プロコン塾卒業生受賞者 紹介

蜂巢 稔幸先生 (聞き手: 島津浩平)

「プロコン塾卒業生代表プレゼンテーション」として5名が発表しました。いずれの発表も大変興味深く、示唆に富んだものだったことと思います。発表後、参加者の最優秀賞を決める投票が行われ今回は「小さな飲食店の販促とその効果～LINE@を活用したリピーター獲得～」でプレゼンした蜂巢先生が選ばれました。その蜂巢先生にプロコン塾で学んだことやプレゼンテーションで心がけていることをお伺いいたしました。

Q1. まずは自己紹介および診断士としての活動に関して教えてください。

蜂巢稔幸 41歳、診断士登録2年目の企業内診断士です。研究会活動としては、1. 企業内診断士フォーラム(城北支部)、2. 診断士力向上勉強会(城北支部)、政策研究会(他)、などに参加しています。これらの研究会では、活動報告やプレゼンなどを行っております。

また、先日の城北支部大会で松本先生にお願いをして会員部に入れていただきました。その他、昨年1年間の活動としては、企業診断を2社、商店街支援の経験を数日間行わせていただきました。

Q2. 今回城北プロコン塾に参加されたということですが、プロコン塾を通じて学んだことを教えてください。

塾生同士や講師の方々とは議論したこと、卒塾レポートの締め切りに追われた日々が懐かしく思えます。一番の収穫は、先生方からアドバイスや時には厳しいお言葉をいただきながら、卒塾レポートを期日までに仕上げたことだと思います。仕事を抱えながら忙しい時期もありましたが、全力でアウトプットを行い、決して手を抜かない、そして常に周りの方々から見られていることを意識して取り組む姿勢をプロコン塾で学びました。

Q3. 今回発表されたレポートについてそのこだわりを教えてください。

私は、理論や検討プロセスの裏づけを取るために、実践での成果をまとめたいと考えました。レポートの中では、成功事例の経営者インタビューを行っています。締め切りが近づく中で、アポをとるのがとても大変で、何度も何度も断られ、心が折れそうになりました。しかし、ヒアリングを行った社長からは、「なんとなくやっていたことを整理して、何がよくて、どこに課題があるのかを教えてください」と、感謝のお言葉をいただき、それが励みになりました。

LINE@を上手に活用して、成功しているお店は、目的や狙いをしっかりと考えて運用を行っています。小さなお店が忙しい中、短い時間で効率的に販促を行えるようにと考えて、レポートの作成を行いました。

Q4. 支部大会でのプレゼンテーションで意識した点、評価されたと思われる点を教えてください。

実際のレポートは、1万字強あり、それを10分で話さるには、そもそも無理があります。プレゼンテーションで重要なことは、聞き手の理解を得ることであり、自分の提案をただ話すだけでは納得を得られないものです。基本的な技術として、1スライド=1メッセージ=1分がありますが、今回、私が用意したスライドは40枚もあり基本的な考え方とは違うものになっています。それでも、評価をいただ

けたのは、①話したい内容のストーリーをイメージで伝えようと、問い掛けで終わり、次のスライドで答えるような構成にしたこと、②できるだけ箇条書きにしたこと、③文字を大きめに書いたこと、④話のテンポと勢いで押し切ったこと、などだと思います。

一方で反省点は、スライドを詰め込みすぎてしまいました。その結果、時間が足りなくなり、棒読みになってしまったことを後悔しています。基本に従い、話したいことを絞り込み、なくてもよいページは思い切って捨てる。そして、自分の言葉で語りかけるような準備ができればよかったと考えています。

Q5. 最後に、特にプロコン塾について興味を持っている読者の皆さんへ一言をお願いします。

プロコン塾の中で、同行訪問をする機会をいただきました。プロコンの先生が、経営者の考える課題感を整理して、解決の方向性をアドバイスするようなコンサルの現場をすぐ側で見せていただきました。マスターコースは沢山ありますが、このような経験ができるプロコン塾は他にはあまりないと思います。このようなすばらしい城北プロコン塾を運営してくださっている先生方に感謝いたします。

今後、診断士としてさまざまな知識や経験を積みあげて活躍していきたいと思います。お会いした際は、お声がけをしていただけると幸いです。どうぞ、よろしくお願いします。



写真左から清水支部長、黒板文生先生、渡邊大介先生、蜂須稔幸先生、坂田卓也先生、花村憲太郎先生、杉山副支部長

支部大会 チャレンジ賞を振り返る

チャレンジ賞受賞者4名は相当な労力を必要とする活動に果敢に挑むとともに、それ以外でも、支部のさまざまな活動に積極的に参加されていることがみてとれます。

今年の受賞者と受賞理由です。

①木村洋一先生

城北プロコン塾の事務局運営について尽力し安定的な発展に努めた。ものづくり補助金の事務局でも専従者として活躍し、診断士のプレゼンス向上に寄与した。

②高橋祐介先生

東京協会の商店街支援事業成果発表会で商店街組織の事業承継について発表し、商店街支援のあるべき方向を示した。当支部の商店街支援事業においても、模範的活動を行ない、支援先からの評価が特に高かった。



写真右から木村先生、村山先生、清水支部長、堀口先生、高橋先生、

③堀口英太郎先生

東京協会の「診断士の日」イベント実行委員として支部代表で参加、貢献した。また、ものづくり補助金審査員として全て従事し、企業内診断士フォーラム幹事としても診断士の案件従事に寄与した。

④村山聡先生

支部活動の支援ツールとしてT w i t t e rの導入を提案し、会議において積極的に説明を行なった。そのことにより支部活動における広報のあり方や会員のコミュニケーションに対する関心を高めた。

受賞者の先生から後日談をいただいております。

高橋先生

「当該プロジェクトへの参加は金先生の紹介がきっかけ、鶴頭先生の後任としてプロジェクトへ参加。前任者のレベルが高く、商店街関係者との同じレベルの信頼関係を築くのに苦労した。」

とのことですが、見事に成し遂げ、今回、前任者である鶴頭先生の推薦での受賞となりました。

「やる？」って言われたら「やります」と言ってみることがチャレンジ賞の第一歩なのでしょう。

堀口先生

「診断士の日イベントは協会として初の試み。さらに10人いれば10通りの診断士像を持っていて、そのため他支部の方と企画段階で相当議論した。また、支部紹介パネル作成にあたりましては、広報部に多大なご協力」をいただきました。

“初”の試みへの挑戦が、高い評価に繋がっているようです・

さて、4人の受賞者の輝かしい功績を振り返り、「自分もやってみたいけど時間がない」「自分の持つノウハウでつとまるか不安」とお考えの方も多いかと思います。

そこで、広報部では、そんな先生方のために『**チャレンジ賞を受賞させるプロジェクト!**』を開始します。

日々の活動 PR、有力な案件・先生とのマッチング、悩み相談など、診断士活動のサポートを本誌を通じて行い、更に、広報部長が次期チャレンジ賞への推薦を行います。

例えば、、

本年度の受賞者の村山先生は、ツイッターという新たなツールの提案での受賞となりました。支部活動に対する時間が取りにくい方でも、**アイデア1つでチャレンジ賞受賞案件になることが証明**されました。ご自身では「大したアイデアではない」と思われていても**実は宝になるかもしれません**。「突拍子もないアイデアだけど、こんなことしたら面白いんじゃないか」というアイデアを募集します。本業で忙しい方でも、アイデアの具現化は本誌が広報、マッチングなどでサポート。しかも、次期チャレンジ賞には、広報部長が推薦を行います。

そして、、「希少な活動」「アイデア」「支部活動の活性化」

⇒**チャレンジ賞に欠かせない3要素を忙しい!面倒くさい!**と嘆く先生でも、**簡単に実現できることがあります**。

それは、当紙への寄稿です。A4 1枚未満の原稿で構いません。メモ程度でも当紙編集部が責任をもって記事化をサポートします⇒簡単にできます。

当紙発行から2年以上「こんなこと書かせて!」と自発的な寄稿は数少なく、、、つまり、その原稿が「こちらからお願いしていない寄稿」という希少な活動に該当します。この貢献を広報部長が見逃すわけがありません。間違いなく次期チャレンジ賞への推薦が得られることでしょう。

みなさまのアイデア・寄稿・クレーム、何でも以下アドレスへお願いします。

宛先は、 johoku.kouhou@gmail.com

次号では、何件の問い合わせが来たか、発表します。

広報部長より一言：本原稿を広報部長は書いておりません。

広報部の業務では創造性や執筆／編集の時間マネジメントが必要な本誌の作成が一番大変だと思っております。その解決策の一つとしての部員が考えたアイデアではありますが、広報部長としては支援することをコミットします。

【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
- ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。

⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部：jhoku.kouhou@gmail.comまで よろしくお願い致します。

JOUHOKU SHINDAN 誌

2016年6月11日発行

発行者：城北支部長 清水一都

編集者：城北支部 広報部